

心筋血流SPECT検査における半導体検出器ガン マカメラとアンガー型ガンマカメラの体厚の違い が画質に与える影響の比較 ~ファントム実験~

Comparison of the effect of image quality on difference in body thickness of semiconductor detector gamma camera and anger type gamma camera by myocardial perfusion SPECT \sim Phantom study \sim

中舎 幸司^{1),2)},濃野祥史²⁾,角凌太³⁾,武藤裕衣¹⁾,松浦佳苗¹⁾,東出了¹⁾,安田鋭介¹⁾ 1)鈴鹿医療科学大学保健衛生学部放射線技術科学科 2)国立循環器病研究センター 放射線部 3)医療法人 宝美会 総合青山病院 放射線技術室

Key words: myocardial perfusion SPECT, body thickness, semiconductor detector gamma camera

[Abstract]

The effect of image quality in the body thickness of the semiconductor detector gamma camera and anger-type gamma camera on myocardial perfusion SPECT was compared and examined. We made a 1cm defect in the anterior wall of the heart liver HL type phantom. We wrapped around the created phantom by changing the fat equivalent phantom to 0, 2, 4, 6cm and collected SPECT. Using the Plot Profile with ImageJ, we compared the contrast of the defective part with the half width or the visual evaluation of the SPECT image. Semiconductor detector Gamma camera decreased contrast and visual evaluation of the defect part as body thickness increased, but the anger-type gamma camera did not change them. Both devices did not change the full width at half maximum of the defect due to an increase in body thickness. Semiconductor detector Gamma camera, so it affects image quality depending on body thickness.

【要旨】

心筋血流SPECT検査における、半導体検出器ガンマカメラとアンガー型ガンマカメラの体厚による画質への影響を比較検討した. 心臓肝臓HL型ファントムの前壁部に1cmの欠損を作成した。本ファントムに脂肪等価ファントムを0,2,4,6cmと変化させて巻 き付けSPECT収集を行った。ImageJによるPlot Profileを用いて、欠損部のコントラストと半値幅およびSPECT像の視覚評価で比 較した。半導体検出器ガンマカメラでは体厚の増加につれ欠損部のコントラストと視覚評価は低下したが、アンガー型ガンマカメラ では変化しなかった。両装置とも体厚の増加で欠損部の半値幅に変化はなかった。半導体検出器ガンマカメラはアンガー型ガンマカ メラより分解能や感度が高いため、体厚が画質に影響する。

1. はじめに

心筋血流 single photon emission computed tomography (SPECT)検査では、特に肥満度の高い 患者において脂肪や筋肉による減弱や散乱の影響を受 ける¹⁾. さらに体厚が厚くなるとコリメーターとの距 離に広がりを持ち、画質に影響を与える.近年では、従 来型であるアンガー型ガンマカメラだけでなく、半導 体検出器を搭載した SPECT装置(半導体検出器ガン マカメラ)により心筋血流 SPECT検査を施行する施 設も増加している²⁾. 本装置は検出器が半導体である

Koji Nakaya^{1),2)}, Yoshifumi Nouno²⁾, Ryota Kaku³⁾, Hiroe Muto¹⁾, Kanae Matsuura¹⁾, Ryo Higashide¹⁾, Eisuke Yasuda¹⁾

- 1) Department of Radiological Technology, Faculty of Health Science, Suzuka University of Medical Science
- 2) Department of Radiology, National Cerebral and Cardiovascular Center
- 3) Room of Radiation Technology, Aoyama General Hospital

Received November 7, 2018; accepted January 25, 2019

ため、従来型であるアンガー型ガンマカメラより分解 能や感度が高く、また収集時間が短く画質も優れてい る^{2~6)}. さらに分解能や感度が高いため、トレーサー の投与量を減少させSPECT収集を行うことができ る^{7.8)}. しかしながら、分解能や感度が優れた本装置に おいても、肥満により画質の低下が生じることがしば しばある. そこで本研究では、両装置のどちらが肥満 による画質への影響がより大きいかを把握するため、 半導体検出器ガンマカメラと従来型であるアンガー型 ガンマカメラの体厚による画質への影響を、ファント ム実験により比較検討を行ったので報告する.

2. 方法

2-1. ファントム作成

本研究では心臓肝臓HL型ファントム(京都科学社) を使用した.心筋の前壁部に1cmの欠損部を作成し 心筋ファントムとした.心臓肝臓ファントムおよび前 壁の欠損部分をFig.1に示す.ラジオアイソトープは ^{99m}Tcを使用し,心筋部には0.123MBq/mlの放射能 濃度の^{99m}Tc水溶液を120ml封入した.本投与濃度



Fig.1-1 Heart liver phantom Fig.1-2 Defect part of myocardium phantom

Fig.1 Cardiac liver phantom and defective part of the anterior wall



- Fig.2-1 Image of fat equivalent phantom (2cm)
- Fig.2-2 Image of a myocardium phantom with a body thickness of 6cm wrapped with a fat equivalent phantom

Fig.2 Image of body thick myocardium phantom wrapped with fat equivalent phantom and fat equivalent phantom

Description of Fig.2-1

The image on the left is an image that solidifies the oil contained in the plastic container. The image on the right is a phantom image from which hardened oil is taken out.

は、臨床で使用される^{99m}Tc-MIBIでは心筋への薬剤 の集積が約2~3%であることから、740MBgを投与 した際,60分後に心筋に2%集積すると仮定した。本 研究では体厚の影響を調査し、散乱線の影響は考慮し ないため、肺や縦隔・肝臓には蒸留水を封入した.ま た体厚を模擬した脂肪等価ファントムはキャノーラ油 を油固め剤で固め,作成した.体厚2cmを模擬した脂 肪等価ファントムはプラスチック容器(縦30cm,横 21cm, 高さ8cm)内に加熱した油を高さ2cmの深さ まで注ぎ、その後、油固め剤を入れ、油を固形にして作 成した. この脂肪等価ファントム(縦30cm,横21cm, 高さ2cm)を4枚作成し、これをつなぎ合わせて心筋 ファントムの外周に巻き付けることで体厚2cmの心 筋ファントムとした.体厚4cmや6cmの場合はそれ ぞれの厚さの脂肪等価ファントムを作成し、4枚つな ぎ合わせて心筋ファントムの外周に巻いた. 作成した 脂肪等価ファントムおよび脂肪等価ファントムを巻い た体厚6cmの心筋ファントムをFig.2に示す.

2-2. SPECT収集

心筋ファントムに脂肪等価ファントムの厚さを0, 2,4,6cmと変化させ、半導体検出器ガンマカメラと アンガー型ガンマカメラを用いてそれぞれSPECT収 集を行った。両装置にファントムを設置してSPECT 収集したときの外観画像をFig.3に示す。

半導体検出器ガンマカメラはD-SPECT(Spectrum Dynamics Medical社)を使用した. コリメーター はwide-angle tungsten collimator (パラレルホー ル)を用いた. 半導体検出器の素材はテルル化亜鉛 カドミウム (cadmium-zinc-telluride : CZT)を用 いた. 収集時間は全ての体厚において4分5秒で収集 した (収集時間は脂肪等価ファントムを巻いていな いとき, 左心室のカウント (left ventricle counts : LV counts)が1.5 million countsに到達する時間 である). どの体厚でも同じ収集時間で比較したいた め,本収集時間を採用した. エネルギーウインドウは 140keV ± 10%,マトリクスサイズは16×64/カラ



原 薯



Fig.3-1 An image obtained by collecting myocardial phantom of body thickness 0cm with D-SPECT



Fig.3-2 An image obtained by collecting myocardial phantom of body thickness 2cm with Brightview

Fig.3 Image of appearance when phantom is collected in both devices

ム, field of view (FOV) は160mm, 拡大率は1 倍, ピクセルサイズは2.26mmを用いた. 再構成条 件は ordered-subset expectation maximization 3D (OSEM-3D)を用い,処理条件は iteration 7, subset 32 とした. 減弱補正と散乱補正は使用してい ない.

アンガー型ガンマカメラは2検出器型ガンマカメラ であるBrightview(フィリップス社)を用いた. コ リメーターは90°に配置し心臓用高分解能コリメー ター(cardiac high-resolution collimator : CHR) を用いた. 収集条件は一方向で50秒間収集(50sec/ step)し, 回転角度は6°とし180°方向のデータを収 集した. エネルギーウインドウは140keV ± 10%, マ トリクスサイズは64 × 64, 拡大率は1.85倍, ピクセ ルサイズは2.26mm とした. 再構成条件は maximum likelihood expectation maximization method (MLEM法)を用い,処理条件は iteration 15, subset 1とした. 前処理フィルターは Butterworth filter (order, 10; cut-off frequency, 0.50 cycle/cm) を用いた. 減弱補正と散乱補正は使用していない.

本研究で用いた両装置の収集条件および再構成条件 などは、国立循環器病研究センターで使用している臨 床条件を採用した.

2-3. 欠損部のコントラスト比

画像再構成したSPECT短軸像の欠損部が中心にあ るスライスおよびその前後のスライスの3断面に対 し、心筋厚中央かつ欠損部を中心としてImageJ(ア メリカ国立衛生研究所)を用いてRegion of Interest (ROI)を設定し、プロファイルカーブを作成した (Fig.4).プロファイルカーブから得た欠損部の最低 画素値をミニマム値、周囲の心筋厚中央の正常部最大



Fig.4 How to set Region of Interest (ROI) centered on center part of myocardial and defect part and creation of profile curve

The profile curve in Figure 4-2 is a graph of D-SPECT collected case (thickness is 0cm). Max is the pixel value at the center of the myocardium. Min is the pixel value at the center of the defect. Full width at half maximum (FWHM) is the distance (mm) on the horizontal axis at the midpoint between max and min.

画素値をマックス値として以下の式 (1) によりコント ラスト比を算出した.

欠損部のコントラスト比 = <u>max-min</u> 式(1) 欠損部画素値:min 心筋厚中央画素値:max

欠損部のコントラスト比を体厚ごとに算出し,両装 置のそれぞれの体厚による欠損部のコントラスト比を 比較した.

2-4. 欠損部の半値幅

上記のプロファイルカーブの欠損部画素値と心筋厚 中央値の中間の値における欠損部の幅を欠損部の半値 幅(full width at half maximum : FWHM)とし て算出し,両装置のそれぞれの体厚による欠損部の半 値幅を比較した.

2-5. 欠損部の視覚評価

両装置の各体厚における SPECT 3軸像に対し, 欠 損部の評価を12人の診療放射線技師が行った. 欠損部 の評価は1 (poor), 2 (fair), 3 (average), 4 (good), および5 (excellent) の5段階評価で行った. 各評価 者の評価値を平均し, 両装置のそれぞれの体厚の視覚 評価を比較した.

2-6. 統計解析

体厚ごとの欠損部のコントラスト比の有意差検定は

一元配置分散分析(One-way ANOVA)を行った. 有意水準をp<0.05とし,体厚間で有意差が認められ た場合,どの体厚間で有意差があるかpost-hoc test でTukey法による多重比較を行った.体厚ごとの半値 幅や視覚評価においても同様の統計解析を行った.

3. 結果

3-1. 欠損部のコントラスト比

両装置の体厚による欠損部のコントラスト比の結 果をFig.5に示す. D-SPECTにおける体厚0, 2, 4, 6cmの欠損部のコントラスト比はそれぞれ0.39 ± 0.04, 0.33 ± 0.02, 0.34, 0.27 ± 0.01であった. D-SPECTの体厚による欠損部のコントラスト比は 0cm と 2cm, 0cm と 4cm, 0cm と 6cmの間に有意 な差が見られた (p<0.05). Brightviewにおける体 厚0, 2, 4, 6cmの欠損部のコントラスト比はそれぞ れ0.21 ± 0.02, 0.23 ± 0.01, 0.22 ± 0.02, 0.20 ± 0.02であった. Brightviewの体厚による欠損部のコ ントラスト比には有意な差は見られなかった (n.s.).

3-2. 欠損部の半値幅

両装置の体厚による欠損部の半値幅の結果をFig.6 に示す. D-SPECTにおける体厚0, 2, 4, 6cmの欠 損部の半値幅はそれぞれ16±0.94, 17±0.47, 18 ±0.47, 16であった. D-SPECTの体厚による欠損 部の半値幅には有意な差は見られなかった (n.s.). Brightviewにおける体厚0, 2, 4, 6cmの欠損部の



Fig.5 Graph of the result of the contrast ratio of the defect part depending on the body thickness of both devices

One-way ANOVA was carried out for the significance test of the contrast ratio of the defect in each body thickness.

A significance level was set at p<0.05, and a significant difference was observed between body thicknesses of D-SPECT (p<0.05). In order to investigate which body thickness there is a significant difference, multiple comparison by the Tukey method was carried out. 心筋血流SPECT検査における半導体検出器ガンマカメラとアンガー型ガンマカメラの体厚の違いが 画質に与える影響の比較 ~ファントム実験~





One-way ANOVA was performed for the significant difference test of FWHM of the defect part due to the difference in body thickness. The significance level was set at p<0.05, and no significant difference was observed between body thicknesses of both devices (n.s.).

半値幅はそれぞれ16±0.94,18±0.82,17±0.82, 15であった.Brightviewの体厚による欠損部の半値 幅には有意な差は見られなかった (n.s.).

3-3. 欠損部の視覚評価

両装置の体厚による欠損部の視覚評価の結果および SPECT画像をそれぞれFig.7,8に示す.D-SPECTに おける体厚0,2,4,6cmの欠損部の視覚評価はそれ ぞれ4.7±0.42,3.8±0.60,3.6±0.69,3.2±0.37 であった.D-SPECTの体厚による欠損部の視覚評価 は0cmと2cm,0cmと4cm,0cmと6cmの間に有 意な差が見られた(p<0.05).Brightviewにおける体 厚0, 2, 4, 6cmの欠損部の視覚評価はそれぞれ4.0 ±0.67, 3.2±0.70, 3.4±0.45, 3.3±0.92であっ た. Brightviewの体厚による欠損部の視覚評価には 有意な差は見られなかった (n.s.).

原著

4. 考察

半導体検出器ガンマカメラと従来型であるアンガー 型ガンマカメラの体厚による画質への影響について, ファントム実験により比較検討を行った.

D-SPECTの欠損部のコントラスト比は体厚が厚く なるにつれ徐々に低下した.体厚6cmの欠損部のコ



Fig.7 Graph of visual evaluation results of defect due to body thickness of both devices

One-way ANOVA was carried out for the significance test of the visual evaluation each body thickness.

A significance level was set at p<0.05, and a significant difference was observed between body thicknesses of D-SPECT (p<0.05). In order to investigate which body thickness there is a significant difference, multiple comparison by the Tukey method was carried out.





Fig.8 single photon emission computed tomography (SPECT) image of the defect part due to body thickness of both devices

ントラスト比は0cmのときと比較し有意に低下した (p<0.05). またD-SPECTの欠損部の視覚評価は体厚 が厚くなるにつれ低下し、体厚2,4,6cmは0cmの ときよりそれぞれ有意に低下した (p<0.05). これら の結果から、D-SPECTの半導体検出器ガンマカメラ は高感度かつ高分解能であるため、脂肪等価ファント ムによる減弱・散乱,距離の逆2乗則による減弱を大き く受け、十分なカウントが得られず画質が低下したと 考える. そのため体厚が厚くなるにつれコントラスト 比および視覚評価の低下が見られた. Brightviewで はSPECT収集を50sec/stepで収集時間を固定して 行っている. この収集時間を固定した条件に合わせる ため、本研究ではD-SPECTでも収集時間を体厚0cm のときのLV countsが1.5 million countsに到達し た時間の4分5秒に固定して、どの体厚のときも同時 間で収集を行った. そのため体厚が厚くなると脂肪等 価ファントムによる減弱・散乱などの影響により十分 なカウントが得られず画質の低下が生じている。しか し、D-SPECTでは収集時間を固定するのではなく、あ る一定のLV countsが得られれば収集が終了すると いうLV countsを固定して収集を行う方式があり、こ の収集方式を使用することで、収集時間が増加し肥満 患者でも高画質を得ることは可能である.今回,両装置 で使用した収集条件は、臨床で使用している収集時間 を採用したため両装置は1ピクセル当たり同カウント とはならない.またD-SPECTに関してだが,SPECT 収集する際はFig.9-1に示すように左心室を点線部内 に配置するように位置決めを行う. この点線部内は SPECT収集時の回転中心部である. 点線部内に左心 室の配置ができれば半導体検出器の特長を生かした高 感度かつ高分解能の画質を得ることができるが、点線 部からズレていくにつれ感度・分解能も共に低下して いく.体厚6cmの場合、検出器と心臓の距離が大き く開き, Fig.9-2に示すように点線部内に全ての左心 室を配置することができなかった. そのため半導体検 出器の高感度かつ高分解能の画質を生かすことができ ず、体厚6cmの欠損部のコントラスト比や視覚評価は 体厚0cmのときと比較し極端に低下した。位置決めが 不十分なため半導体検出器の特長を生かした画質が得 られていないが、半導体検出器であるために体厚6cm の欠損部の視覚評価点は平均3.2点であり、Average 以上の点数にある.しかし、臨床の場で肥満患者にお いても位置決め時にできる限り点線部内に左心室の配 置をし、半導体検出器の高画質な画像を提供したい. 本実験は固形の脂肪等価ファントムであったため、脂 肪を被写体の側部や背部に逃がしてSPECT収集する ことはできなかったが、患者では胸部前面の脂肪を側 部や背部に逃がし、できる限り点線部内に左心室を配 置してSPECT収集することが可能である.従って臨 床現場において肥満患者を SPECT 収集する際には点 線部内に左心室が配置できるように、胸部前面の脂肪 を側部や背部に逃がしながらポジショニングし、半導 体検出器の高画質を十分に生かした SPECT 収集をす る必要がある.一方, Brightviewの欠損部のコント ラスト比, また欠損部の視覚評価は体厚が異なっても それぞれ変化はなかった (n.s.). アンガー型ガンマカ メラは半導体検出器ガンマカメラより感度や分解能が 低いことから、体厚0cmの場合でも画質が低いため

心筋血流SPECT検査における半導体検出器ガンマカメラとアンガー型ガンマカメラの体厚の違いが 画質に与える影響の比較 ~ファントム実験~



原著



Fig.9-1Positioning image with
body thickness 0cmFig.9-2Positioning image with
body thickness 6cm



体厚による影響がほとんど見られなかったこと、さら に最大の原因は収集時間を50sec/stepで収集を行っ ており、6cmまでの体厚増加でも十分なカウントが得 られていたため画質に影響はほとんどなかったと考え る. 両装置で欠損部のコントラスト比と視覚評価を比 較すると、半導体検出器ガンマカメラはアンガー型ガ ンマカメラより、どの体厚においても欠損部のコント ラスト比は高値を示した.やはり半導体検出器は高感 度・高分解能であるため、体厚により画質が低下して もアンガー型カメラより画質が良いことが分かる。こ のように、体厚増加による画質への影響が大きいのは 半導体検出器ガンマカメラである.半導体検出器ガン マカメラで体厚が厚い患者でも画質を低下せずに高画 質の画像を提供するには、前述の通りLV countsをあ る一定のthreshold値を設けて収集を行うこと、また SPECTを収集する場合は胸部前面の脂肪に十分配慮 しSPECT収集を行うことが必要であると考える.

欠損部の半値幅については,両装置とも体厚が厚く なっても欠損部の半値幅にはほとんど変化が見られな かった (n.s.). D-SPECTでは体厚が厚くなるにつれ 欠損部の画質は低下し半値幅に影響が出ると思われた が,体厚が厚いほど散乱成分の増加に伴い心筋厚中央 画素値と欠損部画素値が変動し,1cmの欠損ではプロ ファイルカーブから計測した半値幅は顕著に変化が見 られなかったと考えられる.Brightviewでは収集時 間を50sec/stepで収集を行っており,6cmまでの体 厚増加でも画質に影響はほとんどないため,こちらも 半値幅には変化が見られなかったと考える.

本研究では心筋の前壁のみ欠損部を作成し,欠損部 の物理評価と視覚評価を行った.実際は欠損部の作成 位置(前壁・側壁・中隔・下壁)によって,欠損部と 検出器との位置の違いからそれぞれの欠損の見え方が 異なることが知られている⁹⁾. 今後,体厚の違いによっ て,欠損部の位置が異なるとそれぞれの欠損部にどの ような影響を及ぼすか両装置を用いて検討を行いた い.また疾患あるいは小児の先天性心疾患によって心 臓の位置が異なることもあり,必ずしもSPECT回転 中心部付近に心臓を配置できない場合もある.SPECT 回転中心部のX,YおよびZ軸方向でズレの程度に合 わせて,どのように画質の影響が表面化していくのか 評価することも,今後の検討課題である.

5. 結 論

半導体検出器ガンマカメラはアンガー型ガンマカメ ラより体厚変化による画質への影響が大きいことが示 唆された.半導体検出器ガンマカメラで肥満患者を SPECT収集する場合は,画質が低下しないようにでき る限り SPECT回転中心部内に配置すること,また LV countsをある一定のthreshold値を設けて収集を行 う必要がある.

本研究は,第34回日本診療放射線技師学術大会(山口)で発表した.

6. 謝辞

本研究にご協力いただきました愛仁会千船病院の伊 藤祐斗先生,社会医療法人財団慈泉会相澤病院の吉村 佳悟先生に,心より感謝申し上げます.

図の説明

- Fig.1 心臓肝臓ファントムと前壁の欠損部 Fig.1-1:心臓肝臓ファントム Fig.1-2:心筋の欠損部分 Fig.2 脂肪等価ファントムと脂肪等価ファントムを巻いた体厚 のある心筋ファントムの画像 Fig.2-1:脂肪等価ファントム (2cm) の画像 Fig.2-1の左画像はプラスチック容器の油を固 めている画像、右画像は固まった油を取り出 したファントム画像 Fig.2-2:脂肪等価ファントムを巻いた体厚6cmの心筋 ファントムの画像 Fig.3 両装置のファントムを設置してSPECT収集したときの外 観画像 Fig.3-1: D-SPECTで体厚0cmの心筋ファントムを収 集した画像
 - Fig.3-2: Brightviewで体厚2cmの心筋ファントムを収 集した画像
- Fig.4 心筋厚中央部分と欠損部の中央部分の関心領域の設定 方法とプロファイル作成
 - Fig.4-1:関心領域の設定 Fig.4-2:プロファイルカーブ
- Fig.5 両装置の体厚による欠損部のコントラスト比の結果のグラフ

体厚ごとの欠損部のコントラスト比の有意差検定には 一元配置分散分析を行った. 有意水準はp<0.05と し、D-SPECTにおいて体厚の間に有意差が見られた (p<0.05). どの体の厚さに有意差があるかを調査す るために、Tukey法による多重比較を行った. Fig.5-1:D-SPECTのコントラスト比 Fig.5-2:Brightviewのコントラスト比

- Fig.6
 両装置の体厚による欠損部の半値幅の結果のグラフ

 体厚ごとの欠損部の半値幅の有意差検定には一元配置
 分散分析を行った.
 有意水準はp<0.05とし、両装置と</td>

 も体厚の間に有意差が見られなかった(n.s.).
 Fig.6-1: D-SPECTの半値幅

 Fig.6-2:
 Brightviewの半値幅
- Fig.7 両装置の体厚による欠損部の視覚評価の結果のグラフ 体厚ごとの欠損部の視覚評価の有意差検定には一元配置 分散分析を行った。有意水準はp<0.05とし、D-SPECT において体厚の間に有意差が見られた(p<0.05). どの体 の厚さに有意差があるかを調査するために、Tukey法によ る多重比較を行った。

Fig.7-1:D-SPECTの視覚評価 Fig.7-2:Brightviewの視覚評価

- Fig.8 両装置の体厚による欠損部のSPECT画像 Fig.8-1:D-SPECTのSPECT画像 Fig.8-2:BrightviewのSPECT画像
- Fig.9 D-SPECTにおける体厚0, 6cmのSPECT収集するとき の心筋の位置決め画像
 - Fig.9-1:体厚0cmのときの位置決め画像 Fig.9-2:体厚6cmのときの位置決め画像

参考文献

- Hansen CL, et al.: Effect of patient obesity on the accuracy of thallium-201 myocardial perfusion imaging. Am J Cardiol, 85, 749-752, 2000.
- Nakaya K, et al.: Comparison Between Prone and Upright Imaging of the Inferior Wall Using ²⁰¹TICI Myocardial Perfusion SPECT. J Nucl Med Technol, 45, 304-308, 2017.
- 3) 中舍幸司,他:心筋血流SPECT体位における胸郭部の動 きから見た呼吸性体動の検討-光トラッキングシステムを 用いて-.日本放射線技師教育学会論文誌,10,3-11, 2018.
- Sharir T, et al.: High-speed myocardial perfusion imaging initial clinical comparison with conventional dual detector anger camera imaging. JACC Cardiovasc Imaging, 1, 156-163, 2008.
- Erlandsson K, et al.: Performance evaluation of D-SPECT: a novel SPECT system for nuclear cardiology. Phy Med Biol, 54, 2635-2649, 2009.
- Ryo Nakazato, et al.: Quantitative upright-supine high-speed SPECT myocardial perfusion imaging for detection of coronary artery disease: correlation with invasive coronary angiography. J Nucl Med, 51, 1724-1731, 2010.
- (7) 鈴木康裕,他:高速分子イメージングを可能にしたD-SPECTの特徴、日本心臓核医学会誌、16,24-25,2014.
- 8) 石村隼人:心臓専用半導体SPECT装置における画像収集 方法について. 日本心臓核医学会誌, 16, 28-29, 2014.
- 9) 菊池明泰,他:心臓用半導体SPECT装置における欠損描 出能の基礎的検討.北海道科学大学研究紀要,40,95-99,2016.